

協働的な学びを通した確かな学力の定着につながる新聞活用

指定校 1 年次 千曲市立戸倉上山田中学校 高村 一・町田 祐介

I 実践のねらい

NIE の活動がさらに拡大していくためには、どの学校でも手軽に新聞を活用していくことが必要であると考えます。多くの予算と多くの時間を割けば素晴らしいものができるのは当たり前である。しかし、NIE が特別な活動になっている間は NIE のさらなる普及・拡大は難しいのではないかと考えています。

そこで、今回 NIE 研究指定校として、本校の学力向上テーマである「協働的な学びを通した確かな学力の定着」につながることを期待しつつ、長野県の多くの学校で「NIE って難しいことではない」「普段の授業に少し新聞を加えるだけで学びが深まる」ということが伝わる活動にしていきたいと願っています。

以上のことから本年度 NIE 実践の方向性について、本校では特別なことをやらずに普段の生活・授業の中に自然と新聞が位置づけられることを大切にしていこうと確認をし、実践をスタートさせた。

II 研究の概要

1 信濃毎日新聞「斜面」の書き取り

〈内容〉

毎週末、国語科で平日行っている内容の代わりに宿題として取り組む。斜面の読み書きノート（学年費から購入）に国語科の教師が一週間のコラムから一日分取り出し生徒に配付をしている。取り組みを始めて 3 年目。

〈成果と課題〉

取り組みを通して、生徒の語彙が増えたり、読むスピードが早くなったり、主題にせまる感想が増えてきたりと力が付いてきた成果が感じられている。反面、書くことが苦手な生徒は積極的に取り組むことが難しい。

2 国語科 2 年生の小単元「新聞記事を比べる」

3 年生の小単元「新聞の社説を比較して読もう」

〈内容〉

新聞記事や社説の比較として教科書に載っている教材だけではなく生徒が関心をもちやすい内容を提示し、比較・考察を行っている。

〈成果と課題〉

授業日と近い日の新聞記事を準備したことで生徒たちの関心が高く、活発な授業となった。多面的・多角的な見方だけでなく、新聞を通して社会とつながることが実感できるという利点も見られた。

3 社会科単元「長く続いた戦争とその中で懸命に生きた国民」のなかで新聞記事を資料として配付

〈内容〉

戦時中の様子について信毎データベースから資料を作成し配付した。

〈成果と課題〉

戦争中に様々な立場の人々がいたことに興味を示す生徒が多く、教科書や資料集だけでなく幅広い情報を提供できたことで単元の動機付けにもつながった。

4 図書館前に「新聞を読もう」スペースを設置

〈内容〉

図書館前に、いつでもだれでも新聞が読めるスペースを設置した。NIE 研究指定校として定期的に届けていただいている新聞数紙を置いた。

〈成果と課題〉

「新聞を読もう」スペースが設置された当初は足を止める生徒が少なかったが、授業や短学活でアナウンスをしていくと休み時間や教室移動の際に新聞を開く姿が増えてきた。新聞の設置については司書教諭の協力が得られスムーズに掲示ができた。



「新聞を読もう」スペース

Ⅲ 授業実践（社会科 公民的分野）

1 N I E 公開授業 本時案

(1) 単元名 第4章 私たちの暮らしと経済 2節 生産と労働

(2) 主眼

株価の変動について考える場面で、新聞の経済面や社会面の記事を根拠に株価の変動について予想し確かめることを通して、企業にとって有利な情報は株価を上昇させ、不利な情報は株価を下落させることを理解することができる。

(3) 本時の位置（全4時間扱いの第2時）

- ・ 前時：企業の生産活動を中心に資本主義経済の大まかな特徴を理解する。
- ・ 次時：労働者の権利を守り労働条件を改善するために、労働組合や様々な法律があることを理解する。

(4) 展開

段階	○本時の活動 ・ 予想される活動の姿	☆教師の支援 評価	時間	資料等
導入	①前時の復習をもとに課題を把握する。 ・企業とは、「財」や「サービス」の生産・流通・販売などを行う組織のことだよ。 ・「利潤（もうけ）」の獲得が企業の目的だね。 ・資本金と画期的なアイデアがあればもうけを獲得できるけど、どうやって資本金をあつめたいんだろう…。 株式（会社）とはどのような仕組みなのだろう。 ・たくさんの人々からお金を集める、というのが株式会社の考え方なんだ。 ・銀行と違って、お金を返さなくていいって、すごいよ。 ・利潤の一部を株主に配当するんだ。お金を出資する人にもメリットがあるんだね。 ・僕も、お金があつたら、株を買ってみたいなあ。	☆企業についての「定義」と「目的」を確認する。 ☆資料から資本金をどのように集めるのかが課題であり、その方法として株式会社があることを説明する。	10	資料 1 企業活動の仕組み
展開	② 株価の変動に着目し、課題を設定する。 ・株価って、あがったり下がったりすることがあるよね。 ・新型ゲーム機の発売で、N 社の株、あがったらしいよ。 ・歴史の学習で、株価が大暴落したことも学習したね。 ・世の中の動きと株価って、連動しているんだ！ ・実際に株でお金を増やせるか、試してみたいなあ。 1 週間の世の中の出来事から、株価の変動（値上がり・値下がり）を予想しよう。	☆株価が変動した事例の新聞記事を提示し、株価が社会の動きと連動していることを説明する。 ☆市況欄を使って、株の値上がり（値下がり）幅の大きさを競うゲームに取り組むことを伝える。	5	資料 2～4 新聞記事
	③ 株価に影響を与えそうな記事を探し出し、どの銘柄にするか、グループ内で相談して決める。 ・新商品が発売したりすると、株価はあがりそうだよ。 ・オリンピック前だから、建設業とか値上がりするんじゃないかな。 ・観光客が日本にたくさん訪れているという記事があるよ。旅行関係の株が値上がりしていくんじゃないかな。	☆株価が何パーセント変動したかで競うことを伝える。 ☆市況欄を抜いた 1 週間分の新聞を各班に配付し、社会面・経済面を中心に、経済に影響を与えそうな出来事を探させる。 ☆選択した銘柄と、選択の決め手となる記事を学習カードに記入させる。	20	市況欄を抜いた新聞記事 3 日分
	④ 市況欄から、選択した株式の株価変動を確認する。 ・不祥事の記事が出ていたから、株価が下がるとはおもったけど、かなり変動しているよ。予想通りだね。 ・新製品が出たのに、株価が下がっているよ。なんだろう。新商品が期待外れだったってことかな。	☆市況欄を配付し、変動幅を確認させる。 ☆グループの結果を集計させる。	5	最終日の市況欄
終末	⑤ 結果を振り返り、学習のまとめをする。 ・新商品の発売など、企業にとって有利な情報は株価を上昇させ、不祥事や業績不振など不利な情報は株価を下落させることがわかった。 ・世の中の動きと株価が連動していることがわかった。今まで経済面を目にすることはあまりなかったけど、これからは興味をもってみたい。	☆各班の集計結果を黒板に掲示する。 ☆もっとも変動の大きかったグループが、どのような記事を根拠としたのか紹介する。 企業にとって有利な情報は株価を上昇させ、不利な情報は株価を下落させることを捉えることができたか。	10	

2 授業の様子

NIE の公開授業であったが、特設に一時間新たに時間を設けて行うのではなく、従来やっている単元の中で新聞活用を行った。また、公開クラスだけの特別な授業ではなく三年生の全クラスで同様の授業を行った。

前半部分は株式会社の仕組みについて教師から説明を行った。株式会社について初めて知る生徒がほとんどであったのでパワーポイントを資料として使い、丁寧に説明を行った。具体的な事例をもとに株価の変動について確認をし、課題が設定された。班ごとに新聞2日分を持っていき、株価の変動に影響がありそうな記事を調べ、株価がどう動くか予想をしていった。グループ活動では新聞を使いながら「これが良さそうな内容だから株価上がりそうだよ」「これって株価あがるのかな、それとも下がるのかな」など活発に言葉を交わしながら追究する姿が見られた。



新聞を広げ熱心に活動する生徒たち

授業のまとめ・感想（原文まま）

- ・株価の上がり下がりはその時の会社の環境や株の人気によってそれぞれ決まる。株で稼ごうとするのはある意味賭けだと思った。
- ・株価はいいニュースがあったりするからといっても簡単には上がらず、かといって悪いニュースがあったとしても株を買う人の考え方次第で上がり下がりは決まるんだと思った。
- ・ニュースによって人それぞれ思うことが違うから、その会社のことをよく見てやった方がいいと思いました。
- ・いつもは何気なく見ていた新聞記事の一つ一つが株価にそんなに影響を与えていることを知らなかったのこれから新聞を見るとき目が光ってしまうと思います。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・ 普段の授業の中で新聞を活用することができた。
- ・ 公開授業だけでなく戸倉上山田中学校の社会科として全体で取り組めた。
- ・ 新聞を使ったことで聴き合い問い合う活動が円滑に行えた。
- ・ 新聞を活用したことで主眼に迫ることができた。
- ・ 新聞を活用したことで社会の出来事が自分の生活にも大きくつながっていることがわかった。

〈課題〉

- ・ 授業の内容が盛りだくさんとなり一時間の中でまとめまで行えない学級があった。
→前半部分の株式会社の説明を簡略化することで新聞活用の時間を増やした。

IV 今後に向けて

新聞を活用することで学びが深まることは日々の実践の中から見えてきている。NIEの良さを学校内で共有しつつ、活動が拡大していくように研究を進めたい。特に、冒頭のように特別な活動として計画していくのではなく、生徒の学力向上に向けた学校運営、教科運営の中に自然と位置づけられるよう知恵を絞っていきたい。